最優秀賞

上山　宏（個人・家族の部）

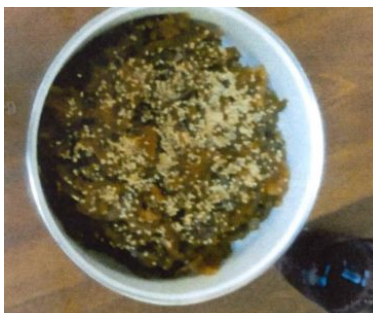


雨が少なく暑い夏で育てるのに苦労しつつも、壁一面のみどりのカーテンができました。
家の中からもびっしり育っているのが見えます。実がなっているかの確認も日々の楽しみ。





実をつけたゴーヤを収穫して自分で食べたり、ご近所さんにおすそ分けしたり、時にはおすそ分けした分が佃煮になって帰ってきたり。



アピールポイントや感想

みどりのカーテンの効果は感覚でしか分からないのですが涼しく感じています。室内の窓からの眺めが心を癒し、涼しさを倍増してくれます。「涼しさ」と「ゴーヤの実で佃煮をつくること」の2つの目的でカーテンを育てて7～8年になります。

ゴーヤは40日ほど収穫できました。隣近所やお友だちにおすそ分けし、ゴーヤが人と人を取り持つ絆にも貢献しています。お裾分けしたゴーヤが佃煮になって帰ってくるなどし、みどりのカーテンとゴーヤがご近所さんとのお話の花を咲かせてくれました。

優秀賞

橘幼稚園（学校等の部）

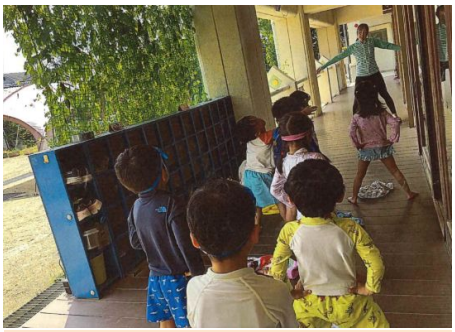




カーテンの影で生きものを育てたり



カーテンの影でひまわりの種を取ったり



カーテンの影でプールの準備体操をしたり

育ったゴーヤの実は子どもたちが収穫。
給食メニューにゴーヤが加わり、ゴーヤを食べたことがない子どもも楽しんで食べられました。

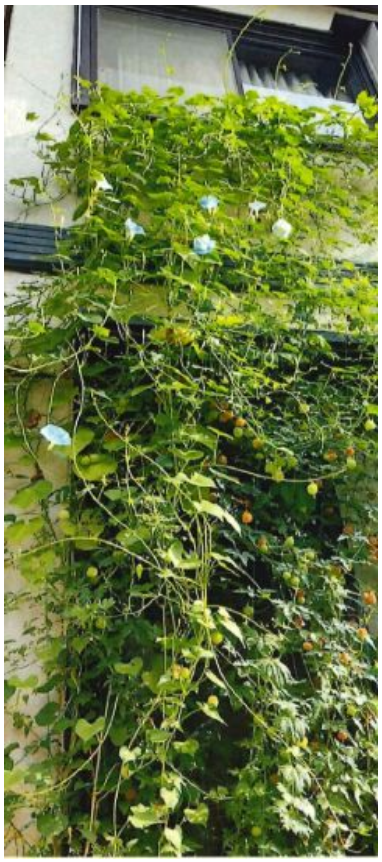


アピールポイントや感想

保健室の前にある下駄箱の辺りで地植えをし、みどりのカーテンとなるゴーヤを育てました。
みどりのカーテンを育てることで保健室前の廊下が日陰の涼しい場所となり、夏でも友だちと遊んだり、生きものを育てたりできる空間ができたように思います。ゴーヤの成長を活かして遊びの環境設定ができました。
また、育ったゴーヤを子どもたちが収穫し、給食のメニューに加わることで、ゴーヤを食べたことがない子どもも、楽しんで食べることができました。

優秀賞

小川真純（個人・家族の部）





ゴーヤ・西洋アサガオ・フウセンカズラのミックスカーテンに加えて・・・

今年は「ささげ豆」でみどりのカーテンに挑戦！





収穫したささげ豆は半分に切って長いまま天ぷらにしていただきました。



いろんな植物の花が咲きました。アサガオ（紫）とかぼちゃ（黄））のコラボです。

アピールポイントや感想

今年は「ささげ豆」でみどりのカーテンを！と思い、５月末に種を巻き、その後追加で苗を植えました。いくら水をやっても追いつかず葉焼けもしましたが、ちゃんと花が咲き、50cm～60cmの滝のごとく長いまめが垂れ下がりました。

植物の悲鳴が聞こえてきそうな今年の暑さに今年は参りました。アサガオなどの花は午前でしぼみ、緑のカーテンの葉っぱも午後にはしなだれてきてしまいます。それでも家の中からみどりのカーテンが常に目に入り心が癒されました。また、家の中でも洗面所、トイレ等へ直接日が差し込むことがなく、カーテンの効果はあったように思います。年々厳しい環境での野菜・花作りとなりますが、来年も植物が元気に育ち、共存して健康に暮らせることを願っています。

優秀賞　舞鶴市立由良川小学校（学校等の部）





正面玄関の右手、校長室の窓側に設置しました。【左側】
校長室側からみると少し枯れた葉も見られましたが、窓全体を覆っています。【右側】







舞鶴市立由良川小学校

ゆらがわ

～こころ豊かに　たくましく～

令和８年度学校だより８・９月号
令和８年８月 27 日発行
〒624-0955　舞鶴市字丸田 74 番地
TEL:0773-82-0013
FAX:0773-82-0353
https://yuragawa-maizuru.edumap.jp

未来へのバトン～志を受け継ぐ～

７月末に発生した大地震により、再び火の国熊本が大きな被害を受けました。また、お盆の時期には、千葉で豪雨災害も発生しました。一日も早く平穏な日々が戻ることを心からお祈りするばかりです。そのような中、全国高等学校野球選手権大会における熊本代表の有明高校の快進撃（初出場、３試合連続逆転勝利、ベスト８進出）は、被災地の皆様に大きな勇気をもたらしたように思います。

～初めて盆を乗り越えた緑のカーテン～

⇧みどりのカーテンを使用した環境学習でその効果を実測しました。実も1夏休み前からたくさんなりました。

⇦何度も挑戦してきたみどりのカーテン。今年始めて盆を超えることができ、学校だより8･9月号にも児童の頑張りを発信しています。

アピールポイントや感想

校長室前にみどりのカーテンを設置したことで、室内に日陰ができ、エアコンの設定温度を　1℃以上下げて過ごすことができました。打ち水効果のようなものなのか、夕刻には涼しい風が流れることもありました。

今年も例年通りの厳しい猛暑でしたが、子どもたちや教職員が懸命に水やりを続け、取り組みをはじめてから初めてお盆休みを超えて緑の葉を残すことができました。放課後児童クラブを利用している児童が、帰りの際に成長の様子を保護者に話しかけ、親子で観察する様子がよく見られました。また、指導員をされている地域の方も気にかけてくださり「今年はよくできている」「実がたくさんなった」などと声をかけてくださいました。また実を使って調理に挑戦した児童もいたように聞いています。

児童が取り組みの趣旨を理解し、大きく育てようと懸命に世話を続けることができ、ツルが伸び葉が広がっていく様子に喜びを感じることで更に意欲的に取り組むことができました。

特別賞

京都府立舞鶴支援学校小学部8組（学校等の部）





2階にある教室のテラスにカーテンを設置しました。【左側】
中からの様子も撮影しています。【右側】





カーテンの前に座って、オリジナルの決めポーズを考えて集合写真を撮影。「大きくなーれ」の気持ちをこめて毎日水やりを続けてきたので、誇らしさいっぱいの表情で撮影できました。【左側】

教室の内側からも記念撮影。撮影直前に「涼しそうなカーテンだね」と声ををかけてもらえたので、涼しげな表情で笑顔いっぱいの写真となりました。【右側】

アピールポイントや感想

児童一人一人がゴーヤに愛着を持ち、成長を身近に感じられるよう、6本の苗を一人一本ずつ担当することとしました。

支援学校の児童にとって暑すぎる日や気持ちが整いにくい日でも、自分のゴーヤに愛着を持ち、毎日の水やりに取り組めました。最初は担任の声掛けで水やりを促すこともありましたが、最後には雨の日でも自ら水をやる姿が見られるようになりました。

ゴーヤが成長するにつれ、他の学級の児童や担任が成長に気づき声をかけてくれることがあり、自分たちが育てたゴーヤが他学級の児童や教員、栄養教諭等との関わりを生み出すきっかけとなりました。

ゴーヤのカーテンは暑さを和らげるための植物、というだけではなく、児童が植物の成長に気づき、世話の大切さを感じたり、自分たちの取り組みを周囲の人に伝えたりするきっかけとなりました。6人それぞれにとって、「ゴーヤ」が日々の学びや人とのつながりを広げてくれた夏となりました。